

清 脩

会報清脩 第45号 令和7年9月11日 飯能市退職校長会

「校長心得箇条」

会長 小見山 実

会長をお受けして2期目(3年目)となりました。会員の皆様方の本会の活動へのご理解、ご協力を今年度もよろしく願います。

ところで、県の退職校長会から今年3月に発行された「ニュースレター」に、埼玉県の令和7年度教員採用選考試験と管理職選考試験の結果が報告されています。

近年、教職員の待遇改善や働き方改革が課題となつていますが、試験の倍率等を見ると大変残念なことに、相変わらず低迷状態にあります。

教員採用試験の倍率は、小学校が1.7倍、中学校が3.4倍と前年度を下回っています。

管理職選考試験は、教頭が1.10倍で前年度と同じく驚くほど低く、校長は2.54倍とこちらも前年度を下回った結果でした。

さらに、教頭、校長ともに受考者数が前年度よりも大きく減少してきており大変気がかりなことです。

指導内容の増加や多様化、保護者対応の変化や目の前にある職場改善のための課題解決等々、管理職に求められる内容が増えているのも事実です。

組織の管理職にはなりたくないというものは、学校だけに限らず一般社会でも同様のようですが、校長経験者の一人としては、教頭、校長を目指す教員が大きく減少している実態



が本当に残念でなりません。

管理職として一校を預かり、子どもたちの夢や希望をはぐくみ、将来にわたって生きてゆく人を育てるといふ教育に対するロマンやビジョンはないのかと教職員に強く問いかけたいと思います。

ところで、諸先輩やご同輩の会員の皆様はどなたも、管理職候補者名簿に登載されてから任用まで数年の間があつたのではないかと思います。その間に受けた管理職候補者研修会が今懐かしく思い出されます。

江戸末期の美濃・岩村藩の儒学者佐藤一斎が、リーダー論「重職心得箇条」を著しています。(参考 安岡正篤著「佐藤一斎 重職心得箇条」を読む)

私は、管理職候補者研修会で講師の先生方の話で心に残った言葉を書きとめ、そのメモを勝手に「校長心得箇条」と名付けて自分への励ましや戒めのために時折確認していました。

そのメモは約50箇条ありますが、以下紙面の許す限り紹介します。

○教頭は「判断」するが、校長は「決

断」する。

○愚痴を言う校長はだめだ

○役職は、人として謙虚たれ

○組織が小さい時、口をだせ

○素早い対応が最大の誠意

○開かれた学校より、開く学校を

○自分自身を地域に開く

○新任らしく初々しく

○新任校長時代のビジョンを超えるものはない

○人は感じて動く

○救つて人を育てる

○預かる子どもはたくさんいても、預ける子どももただ一人

○学校は「高齢化」していても「老齡化」しているわけではない

○「前の校長はこうやっていた」ではだめ、「今の校長は自分」だ

○「酒宴は公界(くがい)ものなり」(葉隠) 酒席も公の場

○健康管理を第一に

○「おいあくま」(おこるな、いばるな、あせるな(あきらめるな)、くさるな、まけるな)

○(校長) ぶらずに(校長) らしく

会員の中には、定年制の延長で役職停止年齢に達しても、特例任用により校長職を続けている方もいます。また、初任者指導教員として後輩の指導にあたっている方もいます。

「校長心得箇条」のいくつかはどこかで聞いた内容だとは思いますが、人としての生き方の指針となるものもあります。少しでも参考になればという思いで紹介しました。

賀 寿 顕 彰 者

叙 勲

叙勲おめでとうございます

永年に渡る教育活動への功績

永年に渡る教育活動の功績に対して、本年度は二名の方が叙勲の栄に浴されました。

岡 部 常 高 様 (吾野)

瑞宝双光章

令和六年一月一日付

飯能市教育委員会 扱

平成九年三月、飯能市立双柳小学校長を退職、

本会に入会して活動をしていただきました。

田 橋 清 彦 様 (入間)

瑞宝双光章

令和六年十一月一日付

飯能市教育委員会 扱

平成九年三月、飯能市立美杉台小学校長を退職、

本会に入会して活動をしていただきました。

高齢者叙勲の栄に浴して

岡 部 常 高

昨年五月八十八歳を迎え、米寿を親族をはじめ多くの方から祝福していただきました。

教育委員会からは教育長様直々拙宅までご足労頂き「瑞宝双光章」を伝達授与賜りました。

多くの方々にご指導いただいた賜物と感謝申し上げます。

退職時近く頂けたら涙して頂いたろうと思うこの賞、退職後二十八年教育の教の字も薄くなりかけてきた今日この頃ですから、こんな賞を頂けるなんて・・・

考えて見れば、こいつ未だどんな失敗をするかわからない・・・様子を見ての期間だったと理解して有難くいただきました。そこで直ぐ正装して勲章をつけて写真を撮りました。

振り返って

田 橋 清 彦

米寿を迎え、ささやかな祝いのお食事会を親族で行いました。その何日か後に、高齢者叙勲の栄に浴する旨の知らせがあり、身に余る光栄と感激いたしました。

二月の吉日、中村教育長様が拙宅まで来られて、勲記・勲章を厳かに伝達され、感激を新たにいたしました。

顧みますと、長年の教職活動で特に印象深いのは、通常経験することのない、指導主事と美杉台小学校開設準備委員の仕事でした。

指導主事は、教育指導の内容が主だが、開設準備委員の仕事は、時には施設・備品・保護者への説明や協力要請・その他諸々でした。平成元年四月の開校・始業式・入学式が迎えられ感慨無量でした。その年は、教頭職を勤めました。

翌年は、校長として入間市立宮寺小学校に赴任し、国語科研究発表・校舎改修等に携わり、四年勤めて異動しました。異動は飯能市立美杉台小学校で、赴任後三年で定年退職。職務を全うしました。

退職後は、公民館や地域活動への支援・協力を努めていましたが高齢の上に心疾患を発症し、病とうまく付き合うよう努めています。

傘 寿

傘寿を迎えて

富 澤 武 男

「いつの間にか歳をとってしまつたんだよなあ。」と八十歳を越えた頃から亡き祖母がよく言っていました。この言葉を聞いていたころには「一年一年歳をとって来たのだから。」と何も感じもしませんでした。いよいよ祖母と同じような年齢になって初めてこの言葉が強く実感されるようになってきました。

特に退職後の一年一年はほんとうに月日の経つのがはやく感じられました。年齢に応じて、まるで電車のスピードが加速し続けているかのように感じていきます。これまでは時速六十キロ、七十キロのスピードでしたが、いよいよこれからは時速八十キロの猛スピードです。この速い速いスピードの中、日々をより大切に充実したものとしていかなくてはと思っています。先日体調を崩してしまい、一月程グズグズしてしまいました。体調を崩してみても、年齢の重さと周りの人の温かさで健康で通常の生活のできることに有難さを強く感じました。

今後はあまり無理をしないでボケ防止と体調の維持に努め日々を充実させていきたいと思っています。



会員の声

自然と共に

岡村 光章

飯能市の山間部、自然豊かな原市場で生まれ育ち、七十三年が過ぎた。そして早いもので、再任用を退職してから八年が過ぎた。

最近「老い」を感じ五月から十一月までの、草刈りが苦痛になってきた。「草刈りをしなくては」と思うが、腰も痛いし「明日にしよう」と一日延ばし、また一日延ばす。その間に、雨が降り、草は遠慮なく伸び、結局、自分の首を絞める辛い作業となる。これも、自分との闘い、自然との戦いの一つと思つて諦めるしかない。その反面、自然の恵みも沢山戴っている。春には、蕨、三つ葉、蒨、筍、梅等多くの恵みを戴いている。夏は、ミョウガを採り、秋には栗を拾い、袖をもぎ、自然の恵みに感謝している。この時ばかりは、「山の生活もいいもんだ」と思う。

しかし、一時は、鹿、猪の被害で、ミョウガの葉、筍等が被害にあった。そこで、五年前に狩猟免許(罫猟)を取得して、捕獲駆除をした結果、食害が減少した。

最近、主な生活が天候に左右される自然との関わりであり、四季の変化を体感できる日々幸せを感じている。

新会員のことは

よろしく願います

平野 功

(飯能市立飯能第一中学校) 六十二歳の定年前に会長の小見山先生からお声かけ頂き、もちろん二つ返事で入会をお願いしました平野です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

臨採を経て平成元年に人間・豊岡小学校で教職生活をスタートした私は藤沢東小学校、日本人学校、名栗小学校等を経験し、平成二十七年に富士見小学校長になりました。令和四年に母校の加治小学校、令和五年に同じく母校の飯能第一中学校長として初めて中学校に勤務し、現在も特例任用でお世話になっています。

飯能市退職校長会の一員になることは私の夢でした。飯能で生まれ、加治小学校、飯能第一中学校、加治中学校で学び、飯能市で管理職として育てていただいた私にとって、本会で恩師の皆様、諸先輩方と活動させていただけることに感謝しかありません。

皆様からご指導ご鞭撻を賜り、微力ながら少しでも本会の発展のために出来ることを行っていきたいと思ひます。

感謝と新たなつながり

島村 武司

(飯能市立美杉台小学校) この度ご縁あつて本会の一員として皆様方のお仲間入りをさせていただけることに深く感謝申し上げます。

平成4年度、毛呂山町で特別支援学級の担任としてスタートし、以後平成8年度から飯能市でお世話になっております。様々な規模や地域性の異なる学校を経験させていただきました。また、管理職としても閉校や開校に携わらせていただいたことは、私の貴重な財産です。その間、出会った皆様方にはたくさんのお言葉や励ましをいただけたおかげで今日があります。

現在は、美杉台小学校の特別支援学級の担任をしております。これまでの経験を生かしつつ、もう一度、あの頃の気持ちを思い出し児童とも向き合えればと思つております。しかし、児童を取り巻く環境の変化や急速なICTの進展など課題や新しいシステムなどに慣れていくことに精一杯の毎日です。「人よし・水よし・空気よし」の飯能で諸先輩方のご指導を受け賜りながら新たなつながりを持つことに感謝と身の引き締まる思いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

思い起せば

井上 貢一

先日開催された、昭和三〇年度生まれの「七〇歳のつどい」に実行委員として携わることができた。九年前の二月に「六〇歳のつどい」開催に向けて集まった実行委員が「六五歳」でもやろうとなんども打ち合わせを重ねた挙句コ罗纳で流れてしまい、それなら七〇でと集まったメンバーだった。中心メンバーにおんぶにだっこですべてお膳立てしてもらい美味しいところだけやらせてもらった実行委員だった気がする。

そういえばずっと昔、生涯学習課にお世話になっていた頃、事務局として実行委員のお手伝いをしたことがあった。二〇年以上も前のことだが、確か昭和一八年度生まれの方たちのつどいだった。終わってから打ち上げにも呼んでいただき、カラオケで「学園広場」を歌つて「若いのによく知っているな。」と喜んで？もらえた。

年齢を重ねると「今日用事がある」「今日行くところがある」とかが大事とよく聞くことがあるが、誰かが喜んでくれることを考えたりしたりすることもいいなと思ひながら、ゴルフの組み合わせ表を作っている。

故人を偲んで

大高秀夫先生を偲んで

神田 俊也

大高先生との出会いは平成五年四月一日でした。第一印象は白髪で清潔感溢れ凛としたお姿でした。

お仕えした二年間の中で次のことが思い起こされました。まず、校長室に「和顔愛語」の言葉を板に手彫りし掲げてありました。その言葉の通り児童の様子を穏やかな笑顔と思ひやりのある言葉で接していました。特に、特別支援学級には毎日足を運び、一人ひとりの個性や状況を理解し愛情を持って見守っていました。また、職員会議や校内研修等の協議では、学校の教育目標を明確にし、教職員の意見に真摯に耳を傾け、常に公正で誠実な態度で教育者としての範を示していました。最後の日、自分の母校である「飯能市立加治小学校」の手彫りした看板を夕暮れ時に、黙って掲げ退勤されました。

ご退職後は社会教育の道に進まれ、退職校長会の会報に、短歌、俳句、随筆等多数の原稿を寄せられていました。特に「独立不羈の生活信条を堅持し来たるべき人生の最終章を迎えたい」という一節に感銘しました。

今までお世話になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(令和六年七月九日 逝去)

小澤良助先生を偲んで

高野 満

小澤先生との出会いは、昭和三十一年四月、新任教師として、現入間市立豊岡中学校に着任した日でした。そこで、初めて先生が、国語や体育の教師として素晴らしい指導力や実績をお持ちの方であることを知りました。

時は、東京オリンピックを控え日本人の体力の向上が、大きな課題となっており、その年、「体力の向上を目指した体育授業」の研究を県教委より委嘱されました。体育担当の教師が、授業の研究に熱心に取り組み、発表。その成果が評価され、文部省表彰を受けました。先生は、研究活動のリーダーとして、その推進に精力的に取り組まれていました。その姿が今でも鮮明に思い出されます。

先生は、豪放、繊細、優しさを兼ね備えられたお人柄です。先生の詠まれた沢山の短歌が、会報に掲載されており、何れも先生のお人柄を彷彿とさせる短歌で良いなあと思ひました。へ今宵より汝の左手になりますと言えは笑まへり手を吊りし妻

人生は、出会い。先生との出会いに感謝あるのみです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(令和六年八月十二日 逝去)

最近の生活から

新たなライフワーク

小澤 暁

再任用五年目、今年も名栗小の教務主任として働いている。三年目には五・六年の担任、四年目には体育主任と十五・六年ぶりの仕事を堪能した。複式学級の担任は初めて！「わたり」の授業も体験した。「担任ってこんなに忙しかったっけ？」という思いと「やっぱり担任は楽しい！」と改めて思った。特に担任では、せっかくなら現役の時は出来なかったような指導がしたいと思ひ、思ひ出に残る一年を過ごした。体育主任では、若い体育主任と接し飯能の若い体育主任もしっかりがんばっていることが確認できた。

そんな充実した生活をライフワークのランニングと共に楽しんでいますが、昨年六月に出たトレイルランニングの大会後、膝に違和感を感じ整形外科を受診すると何と大腿骨下部疲労骨折と診断された。早い話が「走りすぎ」だ。三ヶ月はランニング禁止。出来れば散歩もしない方が良くと言われた。

これを機に、生活スタイルを見直した。ランニングをスマイリングに変え、今は前より体調が良い。少しづつ走れるようになつてきた。もう少しがんばってみよう。

退職から今思うこと

青柳 義久

私は、学校卒業後メーカーの営業職として企業に勤めました。毎月のノルマに追われ「どうすれば商品が売れるか」と日々考え、悩んでいた私のモチベーションを支えたのは、「お客様が笑顔で商品を購入してくれた時の何とも言い難い満足感」だったように思います。その後、退社し教師になりました。学級経営・生徒指導に苦しみ日々、生徒は信頼する人の言うことに耳を傾け、心を寄せます。「悩み苦しむ生徒が心を開いてくれたこと、日々私に反発していた生徒が卒業式後に『先生、迷惑かけて申し訳なかった。』と言ってくれたこと」が思い出されます。現在、再任用を経て市の会計年度職員としての勤務をしています。「窓口対応の際、市民の方が笑顔でお帰りになる時の充実感」は、私のモチベーションを高めてくれます。

これまで私は様々な仕事を経験してきましたが、いつの時も、生徒・保護者・市民・お客様からの「笑顔」、「信頼」による支えがあつてこれまで働き続けることができました。このことに喜びを感じ、感謝し、これからも人と関わり続けたいと思ひています。

年度中の行事報告

地域研修会

令和六年十月三十一日(木)に第十七回地域研修会が飯能市立博物館で開催されました。特別展「飯能の山をゆく―旅の歴史と自然へのいざない―」の見学と講演です。講師は村上達哉主幹と岸裕介主査のお二人でした。

第一部「山への道と旅」第二部「山の自然と成り立ち」の二部構成の展示解説を中心とした研修。参加者の子供の頃の体験と結びついた、飯能の山の歴史、人の動きを改めて見直すことの出来た研修でした。

○展示概要

第一部「山への道と旅」

一 寺社への参拝―江戸時代―
飯能地域の山地を通る道で良く知られているものとしては「秩父甲州往還」の「秩父道」があります。飯能地域の部分は現在の国道二九九号と青梅秩父線とほぼ同じです。この道を通って長念寺へ墓参りをしたのが、中山直道の妻



中山鈴子。さらに、岩殿観音までも訪れています。高い峰、深い谷、木立の茂みなど見えるものがみな珍しく映ったようです。

二 道路の整備と車の通行

―明治以降―

鉄道が整備されるようになると道路も徒歩による交通を目的としたものから、地域産業の振興を目的としたものへと変化しています。明治三十年以降、鉄道敷設計画を契機に、道路整備が高まります。明治四十三年に飯能名栗道で乗合馬車の運行が始まります。同年、県により正丸峠の測量が行われ昭和十一年十一月に正丸峠が開通しました。飯能と秩父がバス路線で結ばれることになりました。

三 鉄道と観光

―大正・昭和時代―

大正四年に武蔵野鉄道の池袋飯能間が開通し、地域の観光資源の活用を活発化させました。各種パレットが武蔵野鉄道株式会社を中心に作成されたほか、地域が主体となって作成された絵葉書もあります。地元作成「名栗八景」「吾野名勝」山に分け入っていく感覚になる「奥武蔵概念図」。その中で飯能の山地のイメージは、ハイキング・登山に最適で、数多くの名所、旧跡、景勝地などを有する自然豊かなエリアというものです。

四 山と創作

「奥武蔵俳句寺」として知られる竹寺をはじめとし、飯能の山には

多くの文人達が吟行・旅行等で訪れたり、移住したりしています。飯能の山は、文人達の感性を刺激する、そして交流の場でもあります。

第二部 山の自然と成り立ち

一 地形・地質からみる飯能の山

飯能の最高峰は日向沢ノ峰の一三五六m。この山から北へたどる尾根筋は秩父市や横瀬町の境となつてツツジ山へ至ります。飯能地域の地形の特徴として、山の尾根の方向と川の谷の方向が、西北西・東南東の向きにそろっています。

二 山をつくる岩石・化石・鉱物

飯能の山でかつて盛んに採掘されたのがマンガンです。戦前から戦後にかけて数多くの鉱山が採掘されましたが、昭和の中頃には閉山しています。マンガン鉱石と共に産出されたマンガン鉱物の一つ「種山石」。北川にある岩井沢鉱山から産出されたもので、埼玉県で唯一の世界新産鉱物(世界で初めて報告された鉱物)です。

三 山の景観をつくる樹木

飯能の山地は標高二百m付近から一三五六mまでの標高差があります。そして沢や尾根、岩場など様々な環境があり、その環境に適した植物の集団がその場の景観を作っています。

○研修中の一言

「スキー場があったんだね。」「ゴルフ場だけでなくスキー場とは知らなかった。」「昔は雪がこんなに降ったんだ。」「昔スパイクタイヤはいてたよ。」「山の手入れ大変だ



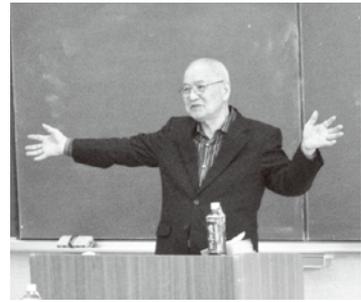
○参加者の感想(抜粋)

・飯能の山について人文分野と自然分野の両面から研修することができました。飯能の昔、道で人が交流し歴史が作られ、今があることを改めて思いました。飯能の山に誇りを感じます。

・飯能の山、歴史あり飯能の自然を愛した文化人あり地形地質樹木あり、多方面多角的な面からの話、飯能の山のダイナミクスを感じました。飯能の山から日本全体の山々を想像した。それだけの奥深い研修会であった。

・日々飯能の山歩きを楽しんでいます。今日の展示物、説明を聞いて勉強になりました。ハイカーに飯能の良さを説明したいと思います。・寺社参りで山道が開かれ、交通の便を図った事、飯能の山にスキー場があった事等初めて知る事が多かった。地質等についても岩石の種類や造山活動など、岩石見本を見ながら勉強になった。

相互研修会



第二十
八回相互
研修会は、
令和七年
二月二十
二日、講
師に小久
保則之先
生をお迎
えし、「教

職三十八年 万事塞翁が馬」と題し、先生の苦難な生徒指導のお話と教え子との楽しい交流のお話をして頂きました。

先生は、現在、ゴルフに麻雀、囲碁に外国旅行と忙しく過ごされ、何より、あの教え子との交流を楽しみにされています。

先生は、昭和四十二年度に狭山東中に赴任され、当時まだあった宿直を頼まれて一年間やったそうです。先輩の先生方との麻雀・囲碁などの炬燵での交流がその後の指導にも大いに生かされたそうです。以来、近隣の大規模中学校に勤務されました。当時の中学校は、生徒指導上の課題も多く、果敢に取り組んでいきました。

大人である先生のすごさを示し、課題のある生徒の本当の理由を見つけ、寄り添い琴線に触れる指導を根気よく続け、生徒の心をつかみ、学校を立て直すきっかけを作りました。

しかし、校長職十三年の間、十二人の教頭という異例な人事、四人の免職者が出てしまう異常な学校現場での長年の勤務は、大変ご苦労があったことと拝聴していた先生方も頷かれていました。先生は、「禍福はあざなえる縄のごとし。頑張れば、良いことも多くあった」と笑い飛ばされ、長期研修や数回の海外研修派遣などの話を思い出深げにされていました。

最後の学校は、最初の赴任校。当時の教え子も親になり、より良い学校づくりに協力して頂け、全国大会にも出場することができました。また、見守っていただいた地域の方からのお褒めの言葉をいただきました。

何よりも課題があった生徒が立派に社会人となり、今でも交流が続いていることが、大変だった三十八年の教職生活を癒し、今が充実されているように思えました。

○参加者の感想（抜粋）

・今回の先生の講話をお聴きして、まず感じたことは「人を信じる」ということです。その大切さと難しさを先生のお人柄を通じて学ばせていただきました。信じていただいた人がどれだけ心強く、その後の成長の大きなエネルギーとなっていることに人望という言葉を思い出しました。人には誰にも陽と陰を持つていることはいくらでもありませんが、その特質を

生まされた歩みをされてきていることに敬意を表す次第です。

・生徒指導でのご苦労されたお話は、私にとつての勤務校の話もあり、大変だった課題生徒への対応も懐かしく思い出されました。先生の教員生活の基本は全て生徒への愛情から成り立っているように感じます。そして、指導も楽しみながらされたと思いました。心と心のつながりを重要視され生徒も先生も信頼されたことと思います。今の教育も方法は変わるかもしれませんが、同じでなければならぬと思います。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

・波乱万丈の教職三十八年間、人として大切な熱い思いを本気で生徒につけ育て教育していた学校の教育の歴史を興味深く拝聴させていただきました。

学校経験の私にとつては、あつとこの間半で人の縁の大切さも強く感じ、



「万事塞翁が馬」私の今後の人生にも生かしたいと思えます。

・大変感動いたしました。波瀾万丈の教職の歴史でしたが、新任教員に聞かせたいとつくづく思いました。給料や働き方ばかり話題になる今の教職ですが、やはり、教育は答えはすぐに出ない「ロマン」だと思えます。そういう職を全うした先生を尊敬します。

・「手のかかる生徒ほど、教師から近づいていけ」生徒指導における大切なことを改めて学ばせていただきました。現代の若い先生方にも、ぜひ伝えていきたいと思えます。先生には、飯能一中時代に大変お世話になりました。あの頃教えて頂いたこと、一緒に経験させていただいたことを今日のお話の中でうかがうことができ、大変懐かしく思いました。

・ご苦労の方がはるかに多くあられたようですが、生徒一人一人に寄り添う先生のお人柄、行動力等がその後多くの喜びに結びついたように感じました。現役時代にお話を伺えたら、自分の校長職に生かされたのかと思えました。

・昭和の頃の中学校の生徒指導は大変だったことを思い出しました。先生は人間性を前面に出して、生徒・職員とたたかってこられたことに感心いたしました。難しい体験が多い中にも、人の恩を感じるほっこりするお話が聞けて、素晴らしい心が温まりました。

文芸

短歌

思いのままに

ウィーンにて

清水成典

フロイドの記念館にもノートありAnalystとは書けないわれは

舌を巻くアインシュタインの否定する黒い穴が撮影されて

今晚のISSよ輝ける列島の灯の核のゴミ何処に

三頭山

細田俊雄

奥多摩の橋を渡りてぶな林をあへぎあへぎて三頭の嶺へ

ぶな林の急坂登り山頂へはるか遠くに富士は霞めり

山峡やまかひにひっそりと咲くクワガタソウ恥らふやうな乙女のごとし

二人となりて

中山 亨

起き抜けに深く息するその瞬時妻の挿したる蠟梅香る

片方が逝きたるのちを語らえば壁にもたるるプーサン笑い

五年ぶり花火大会明かり消しながらむる妻を眺む宵闇

写真



◀「桜風」佐藤信弘

木工芸



◀「木と遊ぶⅢ」浅見敏彦

木版画

▼「常念岳」三版三摺 ハガキ版 澤田清志



編集後記

○会員の皆様からの貴重な原稿をいただき、「清脩 第四十五号」を発行することができました。
○地域研修会と相互研修会の紙面では、参加者の皆様の言葉・感想等を活用させていただいています。紙面に限りがありますが、ご協力の掲載とはいきませんが、ご協力に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(伊藤 誠 記)